THINKのあとのTHAT構文について*

名 本 幹 雄

On THAT-CLAUSE after "THINK"

By
Mikio NAMOTO

The purpose of this paper is to analyze the properties of "that-clause" after THINK in the surface structure. On the clause there are the two typical views: one of them is P.S. Rosenbaum's, the other is F. Nakashima's. The former asserts the clause is generated from Noun Phrase Complementation in the underlying structure, while the latter asserts it is from Verb Phrase Complementation in the terminology of Rosenbaum (1957).

The writer, in this paper, seeks to find the reason why the two inconsistent views occur. It seems to the writer that the reason consists in misunderstanding the underlying structure of THINK. According to the writer's views, the underlying structure is Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation. Some evidences are presented in support of his views in this paper.

It is, moreover, pointed out that both "that-clause" after certain adjectives such as afraid, confident, glad, etc., and "that-clause" after certain verbs such as complair, rejoice, etc., seem to have the same properties as that after THINK.

1. はじめに

THINK のあとの that-clause の解釈については両極端を示すものとして、P.S. Rosenbaum と中島文雄両氏の二説がある。本稿においてはこの両者の考え方を検討し、筆者自身の解釈を示すものである。

Rosenbaum によれば動詞 think は Object Noun Phrase Complementation を構成するものであるが①、中島文雄氏はその基底文において Unspecified it を考慮し②、この it を受ける that-clause は副詞的機能

* 水産大学校研究業績　第659号、1972年1月24日 受理。
Contribution from the Shimonoseki University of Fisheries, No. 659.
Received Jan. 24, 1972.


2. THINK のあとの that-clause の深層構造について

筆者は Rosenbaum, 中島文雄両氏と異なる次のような深層構造を考えたい。Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation である。

Sentence We think that John is honest.

Rosenbaum の言うとく Object Noun Phrase Complementation と考えれば、中島氏の発揚するように次の Passive Voice が不可能であることの説明しきつかない。

* That John is honest is thought.

中島氏は次のような深層構造を考える。

We think [it] [John is honest]

ただしこの NP は Unspecified it であると解釈する。そしてこの Unspecified it をとる S は that-complementizer をとって副詞的 Complement となるので Passive Voice の主語にはならないのである。しかし次の文は成立するのである。

That John is honest is thought of.

もしこの that-clause が本質的に副詞的 Complement であれば当然この文も成立しないことになる。しかし筆者の考える深層構造 Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation より生成されたものと考えれば成立することになる。

THINK のあとの that-clause 検討

3. 1 研究社『新英和中辞典』4)， so の副詞的用法5の項に [文句的] [動詞 say, tell, think, hope, expect, suppose, believe, fear, hear などの目的語として] 使用されると説明されている。

I think so.
I suppose so. = So I suppose.
I told you so.

また【語彙】の項に次の説明がある。
“so は adv. 5 a の用法ではしばしば目的語としての that 言を代表する；この用法の so に対応する否定形は not (cf. NOT 5).”

The war will soon end. — I hope so (= that it will) [I’m afraid not (= that it won’t)].”

研究社『英文法シリーズ』第 4 巻「代名詞」には, so について次のような説明がある5)。

“語彙的には so (＜OE swā) は ‘so, thus’ を意味する副詞である。
（1）代名詞としての用法
（a）動詞 say, speak, tell, think, hope, expect, suppose, imagine, fear, hear, etc. の目的語として たとえば Is he going? に対して, He says so / I think so のように用いられるもので, いずれの場合にも so は that he is going という節の代用をしている。しかし He said she must go, and he said it with a peculiar look of determination in his eyes, － [Curme] の場合には, he said so よりもむしろ it （ときには this, that）が使われる。こうった場合の so と it （ときには this, that）との区別は微妙であるが, so は単に既述の文全体の繰り返しを避けるために標注と用いられる（従って, 意味上の重点は前の動詞にある, He says so / I think so となる）。これに対して it （特に this, that）は, so の場合よりも更に明確に前の（文全体というよりも）語句を受け持っている感を与え（Cf. Curme, Accidence P. 9; Kruisinga, Handbook § 1158）。"
Kruisinga's *Handbook* には次のように書いてある。

"The use of *it* here is preferable because it refers more definitely to the very words of the preceding sentence; whereas *so* would refer to the sentences as a whole."

すなわち *so* は本来語像的には副詞であるが用法上は代名詞または代名詞的で目的語と考える学者もあるということである。また *that-clause* を受けるものが常に *so* とは限らず，*it* の場合もあるということに注目したい。特に *it* が *the very words of the preceding sentence* を指すということ，*so* が語像的には副詞であり，*the sentence as a whole* と指すということは，この *that-clause* の性格をよく表わすものではないだろう。深層構造においては THINK に対してこの *that-clause* は前置詞 of と合体して副詞的機能を果す Prepositional Phrase を構成する。この深層構造が表面構造においては，その Prepositional Phrase を構成する前置詞が落ち一見接続詞 that に導かれる名詞節の感じをたたえるが，潜在的には副詞的機能を果す Prepositional Phrase と考察すべきものなのである。このように考えると本質的には副詞であるが代名詞的用法と考えられる *so* がこの *that-clause* を受けるのに使用されるということは，このような *that-clause* の性質をかなりよくものがたるものではないだろう。さらに *so* のみでなく，*the very words of the preceding sentence* を指すと言われる *it* で受ける場合のあることは，Noun Phrase Complement の存在を示唆するものと解したい。したがって *that-clause* を *it* で受けず *so* で受けるという理由から中島氏の言うごとく，Unspecified *it* の存在およびそれにともなう副詞的 Complement の存在を考察することは疑問視さざるを得ない。

3.2 ここでA.S.Hornby が Verb Pattern 24B にあげている動詞を考えてみるとする。Hornby は次のように言う。

"Some intransitive verbs of the class used in VP 24 may be used with that-clauses. The preposition is omitted (so that, so for as word order is concerned, the pattern resembles VP 11 for transitive verbs). If the preposition is retained, preparatory *it* also occurs."

You may depend (upon it) that every member of the committee will support your proposal.

He insisted (upon it) that he was innocent.

これらの文が示すごとく動詞 *depend, insist* は Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation を構成するものである。

Hornby は THINK を Verb Pattern 4 または11をとる動詞として次のように言う。

"Verbs used in this pattern are chiefly verbs that indicate an opinion, judgement belief, supposition, declaration, or a mental (not a physical) perception. The pattern is typical of formal style. In formal style it is more usual to have a dependent clause after the verb, as in VP 11."

しかし深層構造に前置詞 of をおく筆者の考えでは，THINK は VP 24B に分類されるのが適当となる。VP 24B に属する動詞としてさらに，rejoice, complain がある。これらの動詞は細江氏記博士がその文
文法論論において副詞的名詞文句をとるものとしてあげている動詞である。9）

I rejoice that you are not unjust.
He complained that he had been cruelly used.

これらの動詞も Intransitive Oblique Noun Phrase Complementationを構成するものと考えられる。深層構造において、rejoice の場合は at, Complain の場合は of が存在する Prepositional Phrase を考えれば、これらの that-clause が副詞的機能を果していると感じられる理由が納得できる。

３．３ さらに細江博士がこの種の副詞的名詞文句は形容詞に続く場合に最も多いとして次の例文をあげている。

I am afraid you will not succeed.
I am glad you've come.
I am confident it would have sensibly touched him.

しかし Kruisinga（Handbook § 1968, 2255）、Zandvoort（Handbook §§ 646, 647）はこの構造を名詞節と解釈している。Jespersen（M. E. G. V. §§ 21, 84）は Tertaries すなわち副詞節と解釈する。このような混乱も深層構造において、動詞、形容詞は同じ種類の構成要素と考えられるので、THINK の場合と同様 Intransitive Oblique Noun Phrase Complementationを構成するものとすれば説明がつるものである。

３．４ 次に THINK＋that-clause と be afraid＋that-clause の類似性を考えてみたい。研究社『新英和中辞典』afraid 3 の項に次の説明がある。

"[図解] [＋that 図] [語句を和らげるのに用いて] ... (である) ことを残念に思う... と思う: I'm～ (＝I'm sorry) I cannot help you. (この用法では that が省かれるのが普通) Is it true?—I'm～so [I'm～not]."

ここに be afraid＋that-clause と THINK＋that-clause のいくつかの類似点を見出す。すなわち意味の類似性、接続詞 that の省略、that-clause の so, not での置換等がそれぞれある。このような意味および深層構造の類似性は THINK と当然同様深層構造つまり Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation を想定する有力な evidence と言えよう。

３．５ つぎに That John is honest is thought, は成立しないが、It is thought that John is honest, が成立することはどのように解釈するかという問題がある。これは文法生成過程において Passive Transformation のあとに Extraposition Transformation がほどこされること。 It is thought of that John is honest, ができる。この of が Obligatorily に Deletion されたものと解したい。しかし that John is honest is thought of の that-clause は事実節であるが、It is thought that John is honest, の that-clause は非事実節ではないかという疑問が残る。これは今後の課題としたい。

9）細江逸記，昭和46年：『英文法演説』，藤崎音林，東京，PP. 301－302.
4. 結 語

THINK のあとの that-clause は一般には名詞節と考えられているが、中島氏がこれでは副詞的機能を果すものであると主張した。それには深層構造において Unspecified it の存在を前提される訳であるが、筆者は中島氏と異なった深層構造を考え Unspecified it の存在を疑問視するものである。ただこの that-clause が副詞的機能を表層構造において果していると考えることにおいては意見を同じくするものである。したがって Hornby 流の分類に従えば THINK は VP 以外に示されて VP4B に属するものと考えたい。また afraid, aware, confident 等に続く that-clause には副詞節、名詞節と二通りの混雑した解釈がある。これについても THINK と同様の深層構造、Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation を考えれば説明がつくと考える。

終りに親切な助言を賜った九州大学文学部大江三郎助教授に厚く感謝いたします。

（1972年1月）